

Forest通信 令和4年 5

No.399

林野庁 関東森林管理局 高尾森林ふれあい推進センター

巻頭
Photo

高尾山のいきものたち センダイムシクイ (ムシクイ科)



林の中で「チヨチヨ ビー」とさえずる鳥。緑色っぽい姿で、木の葉に隠れて見つけにくいのが、この声で来ていることが分かる。全長12.5cm程で、上面は緑味の強いオリーブ色、下面は白色、目の上にまゆ毛のような白い線があり、頭の中心に淡白色の斑紋がある。

春に東南アジアなどからやってくる渡り鳥で、低山の落葉広葉樹林などで繁殖し、秋に戻っていく。5~6月に植物の根元などに落ち葉や枯草を集めて巣をつくり、卵を産む。縄張りを持ち、その中を動き回り、昆虫類、クモ類などを採食する。ムシクイの名のとおり、木の小枝や葉などについている虫をたくさん捕食し、木にとっては葉を食べる虫を減らしてくれるありがたい存在だ。

(写真・文 森林インストラクター 藤原 裕二)



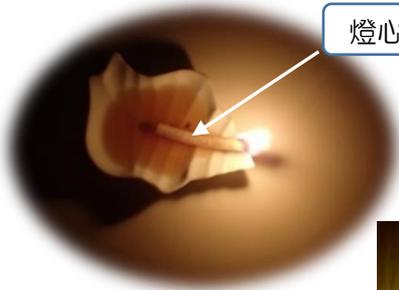
NO.65

髓のある樹木(1) キブシ

早く成長する仕組み(髓)を持った樹木に着目していきたい。なぜ、髓のある樹木が気になったかということ、縄文時代の火起こしを行うときにひきり杵の先棒として使用する樹木は中空になっている木が適しているからである。どうして中空の木が適しているのかということ、火起こしを実際にやってみると一目瞭然である。火きり臼である杉板との摩擦で黒い粉が出るのであるが、この時回転する先棒は外側だけが摩擦で擦れて中心ほど摩擦がほとんど起こらない。中空でない木を使用すると結果的に先の尖った棒が出来上がってしまう。なので中空のほうが先棒として適していることになる。

そんなことをしていたら、中空になっている木、髓のある木はどんな木があるのか気になって調べてみた。それでシリーズとして書いてみることにした。一回目は私の一番好きなキブシからはじめてみる。(富)

キブシの髓は徒長している枝では太く真っすぐであるが成長するにしたがって細くなっていく。この髓は行燈に使っていたころ燈心に使われていた。



燈心に使用していた髓

キブシの枝を標本にした。標本はクラフト室に展示してある。髓を抜くと中空になる。春に黄色のカンザシ状の花を咲かせ秋には鈴なりの実をつける。



キブシの標本

フォレストサポートスタッフ（FSS）委嘱証明書交付式

高尾森林ふれあい推進センターが実施する森林教室や公募イベント等をサポートしていただく森林ボランティア「フォレストサポートスタッフ」の委嘱証明書交付式を4月16日（土）に実施しました。コロナ感染症の影響により3年ぶりの開催です。依然としてコロナ感染者数の高止まり状況が続く中での開催となりましたが、今年度委嘱を決定した36名のうち21名の皆様に参加いただき、出席者一人一人に当センター所長から委嘱証明書を交付しました。

フォレストサポートスタッフは、報酬なしのボランティア活動であるにもかかわらず、当センターが開催するイベントや森林教室に毎回ご協力をいただき、令和3年度は延べ161人のご協力をいただくなど当センターにとっては欠かせない存在となっております。

現時点においてもコロナ感染症の終息が見えない状況下ではありますが、森林教室の依頼が増加傾向にあり、フォレストサポートスタッフの存在がますます重要となっています。今年度もフォレストサポートスタッフのご協力をいただきながら、より良い森林環境教育の実施に努めて参りたいと考えています。（谷）



委嘱証明書交付



安全指導



所長挨拶



熱心に説明を聞き入るスタッフの皆さん

森林カレッジの受講生が決定いたしました。

毎回好評の森林カレッジについて、受講生が決定いたしました。応募いただきました皆様、ありがとうございました。集合時間や場所などは、開催前に詳細を連絡いたします。

残念ながら抽選から漏れてしまった方におかれましては、来年度ぜひご応募いただきますようお願いいたします。

今年度の森林カレッジは以下の4回です。

【カレッジⅠ】

日程 令和4年5月21日（土）
内容 講義「森林の見方」
体験 森林散策
講師 元日本森林学会会長 桜井 尚武 氏



【カレッジⅡ】

日程 令和4年7月9日（土）
内容 講義「森に学ぶ～森づくり
ことづくり ひとづくり」
体験 下草刈り作業
講師 東京農業大学教授 宮林 茂幸 氏



【カレッジⅢ】

日程 令和4年10月15日（土）
内容 講義「木の成長としくみ」
※講義のみとなります
講師 元多摩森林科学園園長 三輪 雄四郎 氏



【カレッジⅣ】

日程 令和5年1月14日（土）
内容 講義「森林の恵みと共に
～炭焼き、そして森林の香り～」
体験 炭焼き作業
講師 東京大学名誉教授 谷田貝 光克 氏



受講生の皆様へ

昨年度は新型コロナウイルス感染症対策のため残念ながら中止の回もありました。今年度も緊急事態宣言等の規制があれば、中止する回があるかもしれません。その場合は何卒ご了承下さい。

新人紹介



4月に高尾森林ふれあい推進センターに来た
2名の新職員を紹介します。



所長 久保 武典

新たに高尾森林ふれあい推進センターに着任した久保と申します。

高尾山は植物が豊かであり、季節に応じた山の変化や都心方面の風景などが楽しめるとともに、ハイキングを通じて気軽に登れる山として知られ、毎日朝早くから多くの登山客が訪れていることに驚かされます。

当センターでは、森林教室やイベント、クラフト体験などを通じて森林・林業の普及活動を行っていますが、高尾山を訪れる多くの登山客の皆様にご当センターの施設を利用していただけるよう、さらに発信力を高めていきたいと思っております。



自然再生指導官 瀬崎 清武

四月一日付の異動で高尾森林ふれあい推進センターで勤務することとなりました瀬崎と申します。

前々任地が近畿中国森林管理局の箕面森林ふれあい推進センターでしたので、なんと東西の「明治の森自然休養林」で仕事をする機会に恵まれました。これも何かの縁かなと思います。多分最後の任地となるであろうこの高尾の森で、森林とふれあうことを楽しみに来られる皆様と共に、森林の素晴らしさ、自然の奥深さを探求できたらと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

この季節に見ることができる花



ニリンソウ



ヨゴレネコノメ



ハナイカダ(雄花)

編集後記

今年の森林教室が安心して開催できるよう、日影沢キャンプ場周辺の歩道沿いに、スズメバチ捕獲用のトラップを仕掛けました。女王バチをたくさん捕獲できたらいいな。



蜂捕獲用トラップ

Forest通信 NO.399

発行：林野庁関東森林管理局
高尾森林ふれあい推進センター

ご意見・ご要望・イベントのお申込み・お問合わせ先
高尾森林ふれあい推進センター

〒193-0844 東京都八王子市高尾町2438-1

TEL 042-663-6689 FAX 042-663-7229

<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/takao/index.html>

